

地球社会に存在意義のある企業へ

キッコーマン(株) 海外事業部
管理第2グループ 長沼寛明

若者層における国際交流支援

日米の家庭生活を体験する高校生

異文化体験を通じて、文化の違いを超えて協力し合える人材を育てることは非常に重要であり、当社は知識を世界に求める積極的な若者を養成することを通して、地域社会に貢献したいと考えてきた。そのような考えから当社は、昭和 53 年から YFU 日本国際交流財団が主催する交換留学生支援プログラムに協力している。毎年、日本からは 4 名の高校生を 1 年間アメリカに派遣し、米国からは 20 数名の高校生を夏の 1 カ月間ホームステイに招いている。留学生は当社工場の立地する千葉県と米国へのウィスコンシン州、カリフォルニア州から一定の人数を選定するようにしている。

米国へ派遣される 4 名のうち 2 名は、全国高等学校家庭クラブ連盟 (FHJ) を通じて派遣され、

東京本社でのサマーアクティビティ (2009 年)



野田「もの知りしょうゆ館」でのサマーアクティビティの参加者 (2006 年)

米国の家庭クラブ活動 (FCCLA) に参加する。彼らは、現地の家庭クラブ活動に参加することで、非常に貴重な体験ができる。たとえば、家庭クラブのナショナル・ミーティングにおいて、全米の家庭クラブメンバーの前で研究発表をおこなったり、活動費を得るための販売用のお菓子づくりなどもしている。また、生野菜を食べない、缶詰以外のフルーツを見たことがない、といった米国の若者の食文化の乱れを目の当たりにし、学校のランチの見直しや新メニューの開発などにも取り組もうとしている。

夏には、来日中の高校生とホストファミリー、および米国への留学プログラムに参加した高校生をキッコーマン東京本社に招き、「YFU・キッコーマン サマーアクティビティ」を開催している。ランチのおにぎりづくりや、キッコーマンアカデミー「しょうゆの不思議」の講義を実施し、食の体験としょうゆに関する知識の提供をおこなっている。

YFU の交換留学プログラムの支援開始以来、日本から 100 名以上、米国からは 600 名以上の高校生がこのプログラムに参加してきた。プログラムを経験した留学生のみなさんがグローバル社会で活躍されていることを心から祈っている。若い世代の文化交流がさらに広がるよう、今後も当事業に貢献していきたいと考えている。

オランダでの環境浄化の協力

“キッコーマン風車”が水質浄化

1997 年から、KIKKOMAN FOOD EUROPE B.V. (KFE) は、オランダ・フローニンゲン州にあ

るザウドラール湖 (Zuidlaardermeer) の水質改善プロジェクトに協力している。

ザウドラール湖は、オランダ・フローニンゲン州でも有数の湖 (州で2番目の大きさ) で、大切な水源となっている。しかし、水質の汚染が深刻化し、生態系への悪影響によって、以前はよく見られた魚や小動物、野鳥までもがその数を減らしてしまった。それらの問題解決には「貯水量の管理」「水質の浄化」「生態系の復帰」が必要となる。その目標達成に向けて、環境保全団体の“Stichting Het Groninger Landschap”が中心となり、水質改善プロジェクトを着手した。この水質改善プロジェクトは、ヨーロッパ共同体、オランダ政府、フローニンゲン州、ホッヘザンドーサッペメア市、WNF (WWF 関連団体) などによって支援されている。

1997年、上述の環境保全団体から、KFEへプロジェクトに協力してほしい旨の申し入れがあった。KFEは「自然との調和」「地域社会にとって存在意義のある会社へ」のポリシーの下、地元住民への関心が高いこと、当湖が工場の水源地であること、自然の恵みへの恩返しできる機会であることなどの理由からこれを快諾し、メインスポンサーとしての寄付を申し出た。この資金で導入された湖水汲み上げ用の風車は、「キッコーマン風車」と名付けられている。

メディアにより、広がる取り組み

プロジェクトが達成しようとする水質浄化のメカニズムは、「自然の力をエネルギー源とし、自然の治癒力で浄化する」のが特徴である。具体的には、広大な水質浄化エリアを湖の隣に設け、風の力を利用して少しずつ湖の水を汲み上げる。この水が浄化エリアをゆっくりと流れる間に、水生生物や微生物などの働きによって徐々に浄化され、また湖にもどっていくという仕組みになっている。

長期的なプロジェクトであり、発足からの短い期間では、著しい効果が確認されたわけではないが、水質と生態系が改善の兆しを見せ始めていると報告されている。また、このプロジェクトはさ



オランダ・ザウドラール湖に立つ「キッコーマン風車」

まざまなメディアで取り上げられ、「自然への負荷の少ない水質管理方法」として注目を浴びている。そのことにより、こういった自然保護の取り組みが各地に広がっていくことも成果の一つであると考えている。

KFEと環境保全団体の間では、少なくとも2012年まではサポートを続ける契約が結ばれている。当プロジェクトでは今後、浄化エリアと各設備の維持および改善が続けられていく。このプロジェクトは、現在は試験的にザウドラール湖で実施されているが、この方法は地域を選ばず、どこでも実施できるのが特徴である。いずれはオランダのみならず、世界の至る所で実施される日が来るかもしれない。ヨーロッパ共同体が参画していることは、その関心の高さの証明ともいえる。

*

私たちは、キッコーマングループの経営理念の1つである「地球社会にとって存在意義のある企業をめざす」ために、社会貢献活動の面でも地球社会の人々に共感され、より大きな活動につながるようなプログラムをこれからも進めていきたいと考えている。 ■

◆キッコーマンの社会・環境への取り組み

<http://www.kikkoman.co.jp/corporate/csr/index.html>